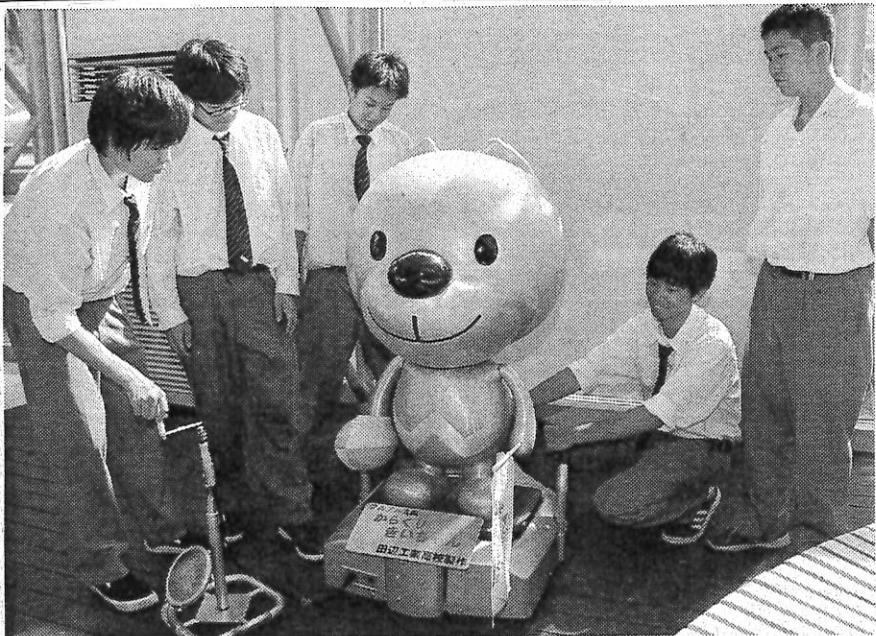


白浜空港

きいちゃん人形が歓迎

田辺工業高 好評の出張展示

南紀白浜空港(白浜町)の1階ロビーに21日、田辺工業高校(田辺市あけぼの)の卒業生が在校中に作ったアルミニウム製の人形「からくりきいちゃん」が設置された。東京(羽田)発の飛行機から降りてくる人たちを歓迎する雰囲気演出しようとして、県が同校に協力を依頼した。人形は8月末まで設置する。



県のマスコットキャラクター「014年度に3年生だった生徒をモデルにした人形は、21日、徒が完成させた。土台部分を

含めて高さ約140センチ。金づちでアルミ板(1センチ×2センチ、厚さ3ミリ)をたたいて丸みをつけ、溶接している。おなかの「W」は、研磨の方向を変えることで微妙な色の違いを表現した。人形とつながるハンドルを時計回りに回すと首や手、尾が動くのが「からくり」。振り子や歯車で動く仕組みだ。

21日は同校工作製図部の2年生5人が空港を訪れ、人形を設置した。門脇俊樹君(16)は「実際にハンドルを回し、どう動くかを見てもらいたい」と話した。

県港湾空港振興課の担当者は「8月1日から羽田―南紀白浜の定期便の一部で機材が大型化されることもあり、協

南紀白浜空港の1階ロビーに設置された「からくりきいちゃん」(21日、白浜町で)

力をお願いした。例えば写真撮って会員交流サイト(SNS)などで発信してもらえば、和歌山のPRにもつながる。

「からくりきいちゃん」は、15年の「紀の国わかやま国体」期間中、田辺スポーツパークやJR紀伊田辺駅に設置し、選手らを迎えた。国体以降も田辺・西牟婁の催しなどへの校外への「出張」は多く、今回の白浜空港が11度目という。

なる」と話している。

工作製図部顧問の高井正人

教諭(48)は「ものづくりに興味のある子どもたちに見てもらえれば『田辺工業ではこんな作品が作れる』ということが分かってもらえる機会に